

長崎北病院 伝言板 10月号

令和8年10月1日発行

10月。長崎は少し過ごしやすくなりましたがまだ雨不足。逆に、東日本は雨続き。豪雨災害が連続。千葉県の実災地でインタビューされた方が「千葉は嫌われているんですかね」と言っていました。がそういう気持ちにもなるでしょう。10月の別名は神無月(かんなづき)。全国の神様が出雲大社に集まるため、他の地方では神様が不在になるという意味です。今年は神様もWeb会議で済ませて、現地で皆さんのお願い聞いてあげてさい。



平均年齢78歳!コメ作り素人集団の挑戦

当院の駐車場脇にある「ジャカラダ」の木が青紫色の花をつけています。初夏に咲く花が今頃。我が家の木蓮にも赤紫色の花が数輪。もともと初春、まだ寒い時期に開花します。酷暑、水不足でいじめられた木々が、涼しくなって生き返った思いで咲き出したのかもしれない。いわゆる狂い咲き。季節外れに花が咲く場合に使われます。狂い咲きや遅咲きという言葉は何となく儚さ(はかなさ)を感じさせます。しかし、一度衰えたものが盛り返して花が咲く。季節外れに花を咲かせる。これには季節通りの開花にはない爆発的なエネルギーや手順の切り替えが必要はらず。儚き花の裏側に隠れた生命力を感じます。



人間でも同じ。若者にはこれから伸びていく、咲き誇るエネルギーがあります。時間もチャンスも無限大。しかし歳をとると残された時間は少ない、今更どうするのとなる。終活や手仕舞いなどの気持ちになる。しかし、中には遅咲き、狂い咲きならぬ今から咲くぞの人もある。先日、「平均年齢78歳!コメ作り素人集団の挑戦」という記事が目にとまりました。稲が実る頃になると台風、強風、大雨で稲が倒れる「倒伏」。品質、味、値段も下がる。

農家は倒れない稲が欲しい。稲の品種改良は通常は専門機関が行います。10年で1000種作って一つできるかどうか。その難しい稲の品種改良に現在平均年齢78歳。前職バラバラの素人6人が挑戦しました。「農家の方が倒伏で苦労されていたので少しでも軽減できたら」「定年から第2の人生が始まる。何かあったほうが面白い」と腰は軽い。素人は恐ろしい。常識にとらわれない遅咲き、狂い咲き軍団が始動。しかし、周囲の目は冷たい。「できるの?」「無理やろ」。県の試験場で聞いた話やホームページの情報を頼りに手探りで開始。目標は倒れない稲。専門機関だと「倒れにくくて、味が良くて、量も取れる」などというスーパー稲を目指すのでしょうか。しかし、彼らは発想が柔軟。「背が低けりゃ倒れないだろう」。背の低い稲の交配を繰り返し7年。ついに20cmも背が低く強い雨風でも倒れない清水1号(清水農園で開発)が完成。2019年には、農水省に新品種として登録。さらに最近の高温で米が白くなる不良米が増えています。専門機関なら「暑さに強い品種改良」となるのですが、そこは素人軍団。最後に出る葉がピンと立ち、穂に当たる直射日光を遮る稲を選択。葉が「傘」になり日光が穂に当たりにくくなるとの計算。大正解。不良米が出たことがないそうです。清水2号完成。清水1号、清水2号を育てる農家は、倒れたことはないし、暑さにも強く味も良い。これからはこれが中心と言っているそうです。いつからでも、幾つになっても「何かあったほうが面白い」。その気持ちがあれば何でもできる。そして頭の柔軟さと目標設定の明確さ。何かを始める時、ゴールがしっかり見えているかどうか。「倒れない稲」「暑さに強い稲」という漠然とした目標で始めていたら、膨大な時間がかかり諦めたでしょう。「背の低い稲」「葉っぱで穂が隠れる稲」という明確なゴールを設定して開始。ゴールからの逆算。



病院の業務改善でもまずスタートし積み重ねていく方法もある。しかし、時間も資源も限られる。まずは明確なゴール設定。そこから逆算して時間や資源を使っていく。できる限りのことをする。逆算の発想。「平均年齢78歳!コメ作り素人集団の挑戦」に学ばせてもらいました。(A.Sa)

